

第4回高安自然再生協議会 協議記録

日時:2015年6月25日(木) PM5:00~7:30

場所:大阪経済法科大学八尾キャンパス会議室

参加者:阪本、太田、加納^{義彦}、齊藤、平尾、松本、加納^{英治}、宮嶋、新福、川密、横川、
加納^{龍三}、近田、岡見、丹羽

1) 協議会の活動費について

現在のところ、協議会では活動費を取り扱わない。
実施者が活動費を独自で準備し、活動に参加する。

2) 高安地域の地元住民の参加について

高安地域の自然再生と地域づくりについて

- ・地元の水利組合や実行組合の参加が必要である。
- ・森林整備や休耕田の自然再生には地主の参加が必要である。
- ・NPOに参加している地元会員に関しても、タナゴの保護は理解できるが、自然再生と地域づくりに関しては説明できていない。
- ・高安地域まちづくり協議会との協働活動について、まちづくり協議会と地域づくりの活動はほとんど実施されていないので時期尚早。
- ・地元の住民に参加してもらうためには、地場産業をしている人に利益が必要である。
- ・環境省(国)が地元の環境保全で注目していることは、地元の住民に説明しやすい。
- ・小さな自然再生のPR冊子ができている。
- ・自然再生と防災に関しては、地元住民にとって最も利害があり理解しやすい。
- ・高安地域の防災マップを作っている。
- ・地元の小中学校をユネスコスクールに認定する。

3) 豊岡のコウノトリの保護活動

- ・コウノトリ米が有名である。
- ・コウノトリ米は2三軒から開始した。現在はブランド化している。
- ・行政が主体になって実施している。

4) 若手メンバーの参加と意見

- ・多くの人の意見をまとめることの重要性を知った。
- ・きんたい米の販売を考えている。きんたい米の条件が重要。
(きんたい米とは、ニッポンバラタナゴが保護されているため池の水で作ったお米)
- ・来年は2kg袋を200個を準備する予定である。
- ・きんたい米の価値を伝えて、2kg袋を1万円で売れる価値説明ができるか。

- ・ 地元の友人にこの活動を伝えることは非常に難しい。活動の内容は地元の人にとってリアルさがない。目に見える利益がない。
- ・ 地元民の郷愁感に訴えることと、実質的な利益のバランスが重要
- ・ 若者にも郷愁はあるよ。
- ・ 地域外への広報と地元への広報
- ・ 高安の良さは外部の方が理解しやすい、その良さを地元伝える。
- ・ 大阪市内の友人が信貴山口に来ると高安の里山に驚く。
- ・ まちづくりには若者とよそ者と馬鹿者が大切。
- ・ 地元の人とどのようにかかわっていくか。地元の良さを少しずつ継続して伝えていくことが重要。

5) 観光資源としての信貴ケーブルについて

- ・ 高安山の人を集めるように考えられないか。
- ・ 近鉄と協働できないか。
- ・ 高安山で炭を焼きたい。森林資源の利用について、炭の利用方法は水の浄化などいろいろとある。

6) 実施者と実施内容のアンケートを次回までにまとめる。

第 5 回高安自然再生協議会

- 1) 第 4 回高安自然再生協議会議事録の確認
- 2) 小さな自然再生 P R 冊子
- 3) 自然再生協議会全国大会について
- 4) 高安地域の自然再生と防災
- 5) 高安山の自然再生
- 6) 久宝寺緑地公園の自然再生
- 7) 高安地域の魅力について
- 8) きんたい米と地場産業について
- 9) 地元住民の参加について
- 1 0) 里山資本主義と高安地域 (藻谷浩介)

次回の高安自然再生協議会日程 (2015 年 12 月 日)